

第32回警察庁政策評価研究会要旨

1 日時

平成28年6月17日（金）午前10時から午前11時00分までの間

2 場所

警察庁庁議室

3 出席者

○ 委員（五十音順）

櫻井 敬子 学習院大学法学部法学科教授

妹尾 堅一郎 特定非営利活動法人産学連携推進機構理事長

田辺 国昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授

前田 雅英 日本大学大学院法務研究科教授（座長）

○ 警察庁

栗生 俊一 官房長

村田 利見 サイバーセキュリティ・情報化審議官

白川 靖浩 官房審議官（国際・調整担当）

安田 貴彦 官房審議官（犯罪被害者等施策担当）

露木 康浩 官房審議官（刑事局・犯罪収益対策担当）

掛江 浩一郎 官房審議官（交通局担当）

斉藤 実 官房審議官（警備局・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当）

塚原 秀利 技術審議官

山本 仁 総務課長

高須 一弘 生活安全企画課長〔官房審議官（生活安全局担当）代理〕

佐野 裕子 総務課警察行政運営企画室長

河合 潔 警察大学校警察政策研究センター所長（オブザーバー）

堀金 雅男 科学警察研究所副所長（オブザーバー）

4 議題

- ・平成27年度実績評価書（案）について

5 報告事項

- ・平成27年度政策評価実施結果報告書（案）について

6 議事要旨

- (1) 議題について、総務課警察行政運営企画室長による説明の後、質疑応答が行われた。

研究会委員の意見等の概要は以下のとおり。

【総論】

- 業績指標の多くが△などと評価しているのに全体評価を○としているなど、業績指標と全体の評価の整合性がなく、見る側とするとわかりづらい。もう一つ工夫が欲しい。
- 人口も犯罪も減少傾向に転じているところで、目標値の設定などについて考え方を見直したらどうか。

【各論】

- 基本目標1・業績目標1「総合的な犯罪抑止対策の推進」の中で、少年の犯罪が著しく減少しており、京都の立ち直り支援策や万引き防止策など、もっと宣伝しても良いのではないか。
 - 基本目標2・業績目標2「政治・行政・経済の構造的不正の追及の強化」について、検挙事件数等が減少しているということで厳しい評価をしているようだが、実態として、この種の構造的不正に係る事案数ないし状況というのは、どのような感触なのか。
 - 基本目標2・業績目標5「被疑者取調べの適正化の更なる推進」について、研修をしたから○というのは変な話であり、「研修をした結果、このような効果が上がった」などという形で評価をすべきではないか。
 - 基本目標4・業績目標3「道路交通環境の整備」の中で、信号機の機能が、待ち時間表示が一目でわかるようになるなど非常にわかりやすくなってきていると感じている。海外にも工夫された信号機があるが、それが実際にどの程度の効果を及ぼしているのか。また、アーバンセンサーとして信号機を活用するような研究は進んでいるのか。
 - 基本目標7・業績目標1「情報セキュリティの確保とネットワーク利用犯罪等サイバー犯罪の抑止」について、標的型メール攻撃の把握方法や他機関との連携状況はどうなっているか、標的型メール攻撃によりシステムに侵入された場合など当該被害企業等は「実害はない」などと発表することがあるが、そもそも「実害」とはどう理解するのか、標的型メールの母数が限られていることは示した方が良いのではないか。
- (2) 報告事項について、総務課警察行政運営企画室長から説明があった。研究会委員からの質問・意見はなかった。

以上